



「三菱UFJ」6資産バランスファンド(成長型)の運用状況<速報>

追加型投信/内外/資産複合

当ファンドは7月6日に第7期の決算を迎えました。運用状況についてご報告申し上げます。なお、運用経過の詳細につきましては、マンスリーレポート等をご参照ください。

7月6日現在の基準価額は、6,114円、前期末比323円のプラスとなりました。当期の分配金は、基準価額水準等を勘案し0円としました。今後の運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合がございます。

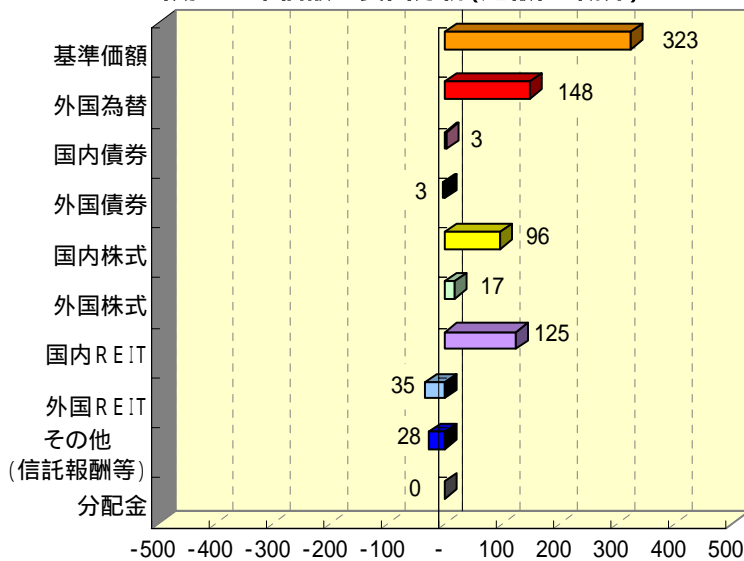
基準価額、基準価額(分配金再投資)の推移 (2006年3月17日~2009年7月6日)



- ・ 基準価額、基準価額(分配金再投資)は、設定日を10,000として指数化しています。
- ・ 基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し1.05%(税抜1%))控除後の値です。
- ・ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

基準価額変動の要因分析 (2009年1月6日~2009年7月6日)

当期の基準価額の要因分析(速報値:概算)



当期の基準価額の変動要因は以下の通りです。

<外国為替>

欧米の景況感の改善やオバマ政権への期待感等から円は主要通貨に対して下落(円安)、概ね148円のプラス要因となりました。

<国内債券>

国内の金利は小幅で推移し、利息収入も含め、概ね3円のプラス要因となりました。

<外国債券>

海外の金利は小幅で推移し、利息収入も含め、概ね3円のマイナス要因となりました。

<国内株式>

世界的な金融危機からの回復期待により、国内株式相場は上昇、概ね96円のプラス要因となりました。

<外国株式>

国内株式と同様に外国株式市場も上昇し、概ね17円のプラス要因となりました。

<国内REIT>

REIT市場の割安感等からREIT相場は上昇。概ね125円のプラス要因となりました。

<外国REIT>

主要国の景況感の悪化や株価下落を背景として、不動産物件に対する収益性の不安から下落。概ね35円のマイナス要因となりました。

・ 上記数値は概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。

・ 基準価額は、信託報酬(純資産総額に対し、年率1.05%(税抜1%))控除後の値です。

マザーファンドと主要為替レートの騰落率

	三菱UFJ 国内債券 マザーファンド	三菱UFJ 外国債券 マザーファンド	三菱UFJ トピックス インデックス マザーファンド	三菱UFJ 外国株式 マザーファンド	MUAM J-REIT マザーファンド	MUAM G-REIT マザーファンド	円/米ドル	円/ユーロ
設定来	7.71%	3.25%	-41.72%	-36.42%	-26.43%	-56.46%	-17.98%	-5.89%
当期	0.33%	4.62%	5.33%	5.61%	22.04%	-4.10%	4.03%	4.21%

・ 上記為替レートは三菱東京UFJ銀行が公表している対顧客電信売買相場の仲値です。

(注)本資料中のグラフ・表は過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

「三菱UFJ」6資産バランスファンド(成長型)の運用状況<速報>

ファンドの特色

- ・主として、三菱UFJトピックスインデックスマザーファンド受益証券、三菱UFJ外国株式マザーファンド受益証券、三菱UFJ国内債券マザーファンド受益証券、三菱UFJ外国債券マザーファンド受益証券、MUAM J-REITマザーファンド受益証券およびMUAM G-REITマザーファンド受益証券への投資を通して、世界各国の株式、公社債、不動産投資信託証券への分散投資を行います。
- ・各マザーファンド受益証券への資金配分は、三菱UFJトピックスインデックスマザーファンド受益証券30%、三菱UFJ外国株式マザーファンド受益証券30%、三菱UFJ国内債券マザーファンド受益証券10%、三菱UFJ外国債券マザーファンド受益証券10%、MUAM J-REITマザーファンド受益証券10%、MUAM G-REITマザーファンド受益証券10%を基本投資割合とします。
- ・毎年1月、7月の各5日(休業日の場合は翌営業日)を決算日とし、収益配分方針に基づき分配を行います。
- ・実質的な組入外貨建資産については、原則として、為替ヘッジを行いません。

商品概要

設定日	: 2006年3月17日
決算日	: 原則として、毎年1・7月の5日(休業日の場合は翌営業日)
信託期間	: 2016年7月5日まで ただし、ファンドの残存口数が10億口を下回った場合等には、信託期間の途中で信託を終了させることがあります。
ベンチマーク	: 規定しておりません。
お買付け申込み・中途換金	: 原則として、いつでもお買付け申込み、換金のお申込みができます。
申込価額	: 申込受付日の翌営業日の基準価額
【お客さまには以下の費用をご負担いただきます。】	
申込時に直接ご負担いただく費用	
申込手数料	: 申込価額×2.1%(税抜2%)を上限として販売会社が定める手数料率
換金時に直接ご負担いただく費用	
信託財産留保額	: 換金申込日の翌営業日の基準価額に0.3%を乗じた額
保有期間中に間接的にご負担いただく費用	
信託報酬	: 純資産総額に対して、年率1.05%(税抜1%) ファンドは実質的に上場投資信託(リート)を投資対象としており、上場投資信託は市場の需給により価格形成されるため、上場投資信託の費用は表示しておりません。
その他費用(*)	: 売買委託手数料、監査報酬、組入資産の保管等に要する諸費用、先物取引・オプション取引等に要する費用等
(*)「その他費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。	
なお、お客さまにご負担いただく費用等の合計額については、お申込金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。	
(課税関係)個人受益者については、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の価額から取得費を控除した利益に対して課税されます。なお、法人の課税は異なります。また、税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。	
詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。	
当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。	

当資料のご利用にあたっての注意事項等

当ファンドは、主に株式・公社債・不動産投資信託証券(リート)を実質的な投資対象としますので、株式・リート市場の相場変動により組入株式・リートの価格が下落すること、金利変動により組入公社債の価格が下落すること、組入株式・公社債・リートの発行者の倒産や財務状況の悪化等の影響により組入株式・公社債・リートの価格が下落すること等で当ファンドの基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、実質的に外貨建資産に投資しますので、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、投資家のみなさまの投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。当ファンドの主な投資リスクとして、組入株式・公社債・リートの価格変動リスクや為替変動リスク、信用リスク、流動性リスク等があります。

詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「基本情報 リスク」をご覧ください。

投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、貯金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。/ 金融商品取引業者以外の金融機関は、投資者保護基金に加入しておりません。/ 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。/ 投資信託の取得のお申込みを行う場合は、販売会社よりお渡する最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。/ 投資信託は、書面による契約の解除(クーリング・オフ)の適用はありません。/ 運用により信託財産に生じた損益はすべて投資家のみなさまに帰属します。

当資料は、当ファンドの運用状況をお知らせするために三菱UFJ投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。/ 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。/ 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。/ 当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

市況動向および資金動向等により、ファンドの基本方針通りの運用が行えない場合があります。

(お申込みの際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

設定・運用 ... 三菱UFJ投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会 (社)投資信託協会
(社)日本証券投資顧問業協会

< お客様専用フリーダイヤル > 0120-151034 (毎営業日の9:00~17:00)
< オフィシャルサイト > <http://www.am.mufg.jp/>
基準価額・分配金をメール配信 <http://k.m-muam.jp/a/1/3>
(* メール配信対象外ファンドもあります。)

「三菱UFJ」6資産バランスファンド(成長型)の運用状況<速報>
当ファンドにかかるリスクについて

当ファンドへの投資にあたっては、主に以下のリスクを伴います。このため、お申込みの際は、当ファンドのリスクを認識・検討し、慎重に投資のご判断を行っていただく必要があります。

市場リスク	<p>(価格変動リスク) 当ファンドは、株式や公社債、不動産投資信託証券を実質的な主要投資対象としており、株式や公社債、不動産投資信託証券の投資に係る価格変動リスクを伴います。一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動し、また、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動し、不動産投資信託証券の価格は保有不動産等の価値やそこから得られる収益の増減等により変動するため、当ファンドはその影響を受け株式や公社債、不動産投資信託証券の価格が下落した場合には基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p> <p>保有不動産等の価値は、不動産市況、社会情勢等のマクロ的な要因の他、不動産の質や収益増減等の個別の要因によって変動しますが、災害等による保有不動産の滅失、劣化または毀損があった場合には、その影響を大きく受けることがあります。なお、保有不動産等から得られる収益は、賃料水準、稼働率、借入金利等の要因により変動します。</p> <p>また、不動産投資信託証券は、株式と同様に上場市場で取引が行われ市場の需給を受けて価格が決定しますが、利回りに着目して取引される傾向もあるため、公社債と同様に、金利の影響を受けることがあります。よって、金利の上昇局面では、不動産投資信託証券に対する投資価値が相対的に低下し、不動産投資信託証券の市場価格が下落する場合があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p> <p>(為替変動リスク) 実質的な主要投資対象である海外の株式や公社債、不動産投資信託証券は外貨建資産ですので、為替変動の影響を受けます。そのため、為替相場が円高方向に進んだ場合には、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
信用リスク	<p>信用リスクとは、有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となること等をいいます。当ファンドは、信用リスクを伴い、その影響を受けますので、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
流動性リスク	<p>有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない、または取引が不可能となるリスクのことを流動性リスクといい、当ファンドはそのリスクを伴います。例えば、組み入れている株式や公社債、不動産投資信託証券の売却を十分な流動性の下で行えないときは、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。また、不動産投資信託証券は、株式と比べ市場規模が小さく、また、一般的に取引量も少ないため、流動性リスクも高い傾向にあります。</p>
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・当ファンドは、一定の運用成果を保証するものではありません。 ・当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、当ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のペビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、当ファンドの基準価額に影響する場合があります。 ・不動産投資信託証券および不動産投資信託証券が保有する不動産に係る法律、税制、会計などの制度変更が、不動産投資信託証券の価格や配当率に影響を及ぼすことがあります。不動産投資信託証券の投資口数が増加する場合、1口当たりの不動産投資信託証券の収益性が低下することがあります。

